

愛・地球博20祭 特別企画 まつりとコミュニティ

第1部 未来共想フォーラムⅡ「まつりの力と絆」

10:00
|
11:30

地域の祭や伝統を取り上げ、継承の工夫や祭と地域のアイデンティティ、絆などについて議論します



石田 芳弘（いしだ よしひろ）
「祭と地域コミュニティ政策の実践」
（一般社団法人）「犬山祭保存会」会長（株）木曾川観光
社長、中部大学フェロー。愛知県議会議員、犬山市長、衆
議院議員、文科省中央教育審議会委員、神野学園理事長、
至学館大学コミュニティ研究所長等を歴任。現在、「犬山
祭保存会」を主導する立場として、犬山市の伝統文化の継
承に努めている。座右の銘は「本来無一物」。



児玉 剛（こだま つよし）
「まつりの裏方」
長久手市くらし文化部生涯学習課長。長久手市生まれ長久
手育ちだが、「長久手まつり」に参加したのは、長久手
市役所に就職してから。諸先輩方から、棒の手、火縄銃な
どの指導を受けて、現在に至る。「長久手まつり保存
会」事務局長として、本業とは別に、伝統文化の保存継承
に努めている。



牧野 由佳（まきの ゆか）
「知多市朝倉地区の生活・生業の変化と梯子獅子の継承」
新潟大学文学部助教。名古屋大学大学院・総合研究
大学院大学（国立歴史民俗博物館）等で学ぶ。専攻は日本
民俗学・民俗芸能研究。元知多市歴史民俗博物館学芸員。
10年以上にわたり朝倉の梯子獅子に関する調査・研究を行
う。論文「知多半島『朝倉の梯子獅子』の戦後における伝
承の変容」で日本民俗学会研究奨励賞を受賞。



佐々木 重洋（ささき しげひろ）
「『はな』を継承すること—奥三河、花祭と地域社会—」
名古屋大学大学院人文科学研究科教授。熱帯アフリカと日本
を主なフィールドとし、宗教的世界観の物質性について調
査研究を継続。著書に『仮面パフォーマンスの人類学—ア
フリカ、豹の森の仮面文化と近代』、『聖性の物質性—人
類学と美術史の交わる場所』、『魅惑の民俗映像—沢田敏
三と宮本繁太郎が撮った一九三〇年代の日本・アジア』な
ど。

第2部 祭・民俗芸能 実演

11:40
|
12:30

朝倉の梯子獅子(朝倉梯子獅子保存会) ※今回は地上での獅子舞

高さ約9mの梯子と檜上でアクロバティックな演舞を行う獅子舞で、知多市朝倉地区に伝承されている。毎年10月第一日曜日とその前日に、朝倉の氏神社であ
る 牟山神社の例大祭で奉納される。獅子は二人一組で演じられ、演者たちによる高所での息の合った離れ技が見どころ。愛知県指定無形民俗文化財(昭和34
年)。近年は担い手の減少が課題で、市内外から会員を募っている。本実演では、舞台上での獅子舞と未来担う子ども獅子を披露する。



長久手の棒の手(長久手市棒の手保存会)

棒の手の演技は、定型的な短い動作「手」(型)が基本で、その組み合わせを一つの演目とし、棒・木太刀を使う「表型」、キレモノといわれる刃物を使う「裏型」が
ある。長久手市で伝承保存されているのは四流派あり、その華麗な古典芸能は昭和31年に愛知県無形民俗文化財の指定を受けた。古来の武術の組太刀を祭れ
に奉納することにより古来の文化を伝承してきた先祖の業績は尊く、「長久手市棒の手保存会」はその継承に尽力している。

第3部 未来共想フォーラムⅢ「地域づくりとレジリエンス」

13:30
|
15:00

地域コミュニティづくりと災害などの危機への対応やレジリエンスについて議論します ※レジリエンス=危機を生き抜く知



日丸 美彦（ひまる よしひこ）
「フィリピン山岳先住民族の文化・教育・レジリエンス」
愛知県立大学ほか非常勤講師（文化人類学）。2019年まで
朝日新聞社広告局勤務。2010年から県大大学院で稲村教授
の門下生となる。翌年から現フィリピン北部山岳地域で、
伝統文化の教育資源化をテーマに研究調査。東日本震災直
後、名工大北川教授の「インスタントハウス」の開発契機
となる避難所調査に同行。2019年から6年間、長久手市
国際交流協会でも事務局長等として活動。



竹内 愛（たけうち あい）
「ネパールの女性自助組織の災害対応」
南山大学人類学研究所プロジェクト研究員。専攻は文化人
類学、ジェンダー論。2003年からネパール・カトマンズ盆
地に居住するネパール民族の女性自助組織の活動、女性の
生き方、ジェンダー構造の変容等について調査研究。主著
として『ジェンダーと災害の民族誌』、論文として「ネ
パールの旧王都バタンにおける女性自助組織経営の展開」
（『人類学研究論集』6号）など。



中原 聖乃（なかはら さとえ）
「マーシャル諸島の核実験被爆・島民避難とコミュニティ再編」
金沢星稜大学准教授。山口県生まれ。一般企業を経て研究の
道へ。現在、文化人類学、多文化共生論などを教えている。サ
ングの美しい島国マーシャル諸島で、豊かな島民の生活と、そ
れを破壊した核実験とその後の復興過程を研究してきた。著書
に「放射能難民から生活圏再生へ—マーシャルからフクシマへ
の伝言」、核問題の「当事者性」—時間と場所を超えた問いか
け」など。



栗田 暢之（くりた のぶゆき）
「いのちと暮らしを守る地域コミュニティの防災力」
NPO法人「レスキューストックヤード(RSY)」代表理事。瑞穂市
生まれ。阪神・淡路大震災を機に50ヶ所以上の災害現場で支
援活動を展開し、平常時には地域防災力向上や災害ボラン
ティア育成等に努める。2000年東海豪雨水害時は県庁内「愛
知・名古屋水害ボランティア本部」本部長を務めた。防災庁設
置準備アドバイザー会議、愛知県防災対策有識者懇談会など
の委員、岐阜大学、至学館大学等の非常勤講師も務める。



松宮 朝（まつみや あした）
「外国籍住民のコミュニティとレジリエンス」
愛知県立大学教育福祉学部教授。社会学、コミュニティ論、社
会調査法など。愛・地球博期間とその前後に「万博と市民参
加」の調査を学生と実施。高齢者参加のコミュニティづくり、多
文化共生のまちづくりをテーマに、愛知県を中心にフィールド
ワークを続け、外国籍住民など多様な主体のコミュニティ実践
の可能性を追究。著者に『かかわりの循環—コミュニティ実践
の社会学』、『(生活—文脈)理解のすすめ』など。



総合司会: 稲村 哲也（いなむら てつや）
野外民族博物館リトルワールド館長、愛知県立大学・放送大学
名誉教授。専攻は文化人類学、博物館学。中米、南米アンデ
ス、ヒマラヤ・チベット、モンゴルなどで、先住民文化や牧畜文
化の比較研究を行ってきた。リトルワールドの開館(1983年)に
携わり、愛知県立大学教授、放送大学教授などを経て、2024
年4月から現職。主著に、『遊牧、移牧、定牧』、『レジリエンス人
類史』、『博物館概論』、『博物館展示論』など



参加登録方法:会場参加、オンライン参加どちらもwebでの登録が必要です

右記の二次元コードから事前登録をしてください

※会場参加はそれぞれ定員100名です 定員になり次第締め切ります

※web配信の視聴方法については登録されたメールアドレス 宛にお知らせします

